

このページは、小・中学生に向けて梅光学院大学子ども学部子ども未来学科(地域共生ゼミ)の学生が作っています。

※イラスト 渡邊志帆さん

しものせき キッズページ

しものせき やちよう 「下関の野鳥」



▲オオタカとカモ類。オオタカは冬鳥で、カモと同時にやっけてきます。カモを狙います。

「ホーホケキョ」。春になると、ウグイスなど、たくさん鳥たちが歌い始めます。下関にいるさまざまな鳥を見て、春を感じてみませんか？

乃木浜総合公園

関門海峡の東側にある乃木浜一帯は、木屋川・神田川河口に発達した代表的な干潟として知られています。ここは、シギ・チドリ・カモ類の渡来地として貴重な場所となつています。

乃木浜は、市内に残された数少ない鳥類の生息地です。乃木浜一帯には干潟・ヨシ原・農耕地など



①「留鳥」：季節による移動はなく、1年を通して同じ場所にいます。身近な鳥だとスズメやカラス、キジなどが留鳥です。
②「夏鳥」：繁殖のため、夏に南から飛んできます。夏の繁殖期後は、冬を越すため南へ渡ります。ツバメやカッコウが夏鳥です。
③「冬鳥」：冬を越すため、北から日本へ渡ってきます。冬が終わると、繁殖のため北へ帰ります。身近な鳥ではカモなどが冬鳥です。

乃木浜総合公園では、カモ15種類、サギ8種類、カモメ3種類を観察することができます。4月は、公園内に生えているグミの木の実を食べにくるメジロやヒヨドリを見ることが出来ます。

乃木浜の野鳥



乃木浜には、主に次の3種類の鳥が入り込んでいます。
①「留鳥」：季節による移動はなく、1年を通して同じ場所にいます。身近な鳥だとスズメやカラス、キジなどが留鳥です。
②「夏鳥」：繁殖のため、夏に南から飛んできます。夏の繁殖期後は、冬を越すため南へ渡ります。ツバメやカッコウが夏鳥です。
③「冬鳥」：冬を越すため、北から日本へ渡ってきます。冬が終わると、繁殖のため北へ帰ります。身近な鳥ではカモなどが冬鳥です。

野鳥観察所は、その乃木浜にある総合公園の一角に作られ、平成11年4月に開館しました。水辺の鳥が好むヨシ原を見渡すことができます。四季折々、野鳥の生態を身近に観察できる施設として、多くの方に親しまれています。

●乃木浜総合公園
所下関市乃木浜二丁目
閩公園管理棟(☎248-3081)

- ★館内では静かに観察しましょう。
- ★餌を与えてはいけません。
- ★ヨシ原や池に入ってはいけません。釣りは禁止です。
- ★ごみの投げ捨てはいたしません。これらを守り、楽しく鳥を観察しましょう！

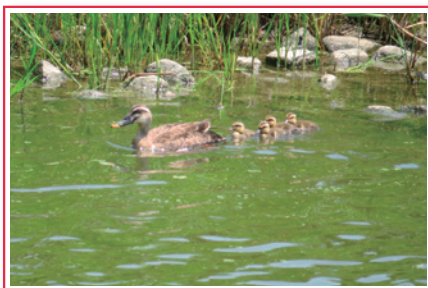
ぜひ、自然観察の楽しさを見つけて、乃木浜総合公園を訪ねてみませんか？

野鳥観察所へ！
施設内は、午前9時～午後5時まで自由に出入りできます。中には望遠鏡があり、観察できる鳥の写真やイラストが飾られています。
第1・第3日曜日の午前9時～午後3時30分までは鳥のことや望遠鏡の使い方を説明するために、「野鳥の会」の方が観察所にいます。
会の方は、鳥のふんが原因でできるヘドロの回収も行うなど、鳥たちが住みやすい環境づくりも行っていきます。私たちも、次の観察マナーを守り、鳥たちが住みやすい環境が維持できるように努めましょう。

野鳥観察所へ！
施設内は、午前9時～午後5時まで自由に出入りできます。中には望遠鏡があり、観察できる鳥の写真やイラストが飾られています。
第1・第3日曜日の午前9時～午後3時30分までは鳥のことや望遠鏡の使い方を説明するために、「野鳥の会」の方が観察所にいます。
会の方は、鳥のふんが原因でできるヘドロの回収も行うなど、鳥たちが住みやすい環境づくりも行っていきます。私たちも、次の観察マナーを守り、鳥たちが住みやすい環境が維持できるように努めましょう。



4月号の編集記者(左から) 渡邊志帆さん、原田陽さん、二坂佑佳さん、水上真菜さん



▲カルガモ(留鳥)。5～6月ごろから繁殖が始まり、子連れが見られます。



▼神田川水系から餌をとり乃木浜にやってきて小魚を食べます。
オオヅクリン(冬鳥)
▲アシ原に住み着く鳥です。4月でも見られます。
カワセミ(留鳥)

▲野鳥観察所内にある望遠鏡を使えば、鳥たちを間近に見ることもできます。